**クリスマス聖夜礼拝　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　2024年12月24日**

**「最高のプレゼント」**

**今日は12月24日クリスマスイブです。明日はクリスマスです。私たちはこのようにクリスマス聖夜礼拝を守ることができることを感謝しています。**

**クリスマスの時期になるとよく読まれる小説の一つにオー・ヘンリーが書いた「賢者の贈り物」があります。ご存じの方も多いのではないかと思います。**

**アメリカのニューヨークの街に、ある若く貧しい夫婦が暮らしていました。夫の名はジム、妻の名はデラです。今日はクリスマスイブです。妻のデラは夫ジムが祖父から受け継いだ非常に立派な金の懐中時計に付ける鎖をプレゼントしたいと思っていました。それは、ジムの懐中時計は非常に立派なのですが、古い革ひもを鎖の代わりにつけていたので、ジムは時間を調べる時は誰にもわからないようにこっそりと懐中時計を見ていたのです。ですから、デラはプラチナの鎖をプレゼントに買ってあげて、ジムが人前で堂々と時計を見ることができるようにしてあげたいと思ったのです。しかし、とにかくお金がないのです。考えに考えたデラは大切な自慢の美しく長い髪を売ってお金を工面し、夫へのプレゼントを買いました。**

**何も知らないジムは仕事から帰ってきて髪が短くなったデラを見て固まってしまいました。それは、ジムはデラの美しく長い髪に刺すのにお似合いのべっ甲の櫛をプレゼントのために買ってきたからです。でも、もうデラの長い髪はないのです。そして、ジムはデラへのプレゼント買うお金を工面するために、最も大切にしている金の懐中時計を売ったのでした。**

**このようなお話です。このお話は若く貧しい夫婦がお互いのクリスマスプレゼントのために、それぞれに自分が最も大切にしているものを売ってそのお金で相手のためにプレゼントを買ったのです。金の懐中時計につけるはずだったプラチナの鎖、美しく長い髪に刺す予定だったべっこうの櫛、結局お互いのプレゼントは無駄になってしまったのですが、お互いが相手を思いやる思いやりの気持ち、それは愛と言い換えていいでしょう。お互いが愛を分かち合ったのです。**

**オー・ヘンリーは「賢者の贈り物」をこう結んでいます。「人にものを贈る人のなかで、この二人こそもっとも賢明だったのだ。贈り物をあげたり、もらったりする人のなかで、彼らのような人間こそもっとも賢明なのだ。世界のどこに住んでいようとも、彼らこそ最も賢明なのだ。彼らこそ東方の賢者なのである。」**

**この「賢者の贈り物」の原題は「The Gift of the Magi」です。マギというのは「東方の賢者」であり、さきほど読んでいただいたマタイによる福音書2章1～12節に登場する占星術の学者たちのことです(口語訳は東方の博士たち)。**

**オー・ヘンリーは、占星術の学者たちが、お生まれになられたイエス様を拝むために輝く星に導かれて東の方からはるばるやって来て、黄金、乳香、没薬を贈り物として捧げて礼拝をする。この出来事を元にして『賢者の贈り物』を作ったと言われています。**

**東方(ペルシャ・バビロニア)から来た占星術の学者たち、博士たちはユダヤ人ではありません。また異教の神を信じてその神様に仕える人たちであったとも言われています。そのような異邦人であり異教の神を信じる人たちが、世の救い主の誕生を星の導きによって知り、何千キロも離れたユダヤの地にイエス様を拝みに行くわけです。そして、生まれたばかりのイエス様に贈り物として献げたのは、黄金・乳香・没薬です。この3つのものはいずれも非常に高価なものであり、さらには、この3つのものは占星術の学者が仕事をするためになくてはならない大切なものだそうです。それは、彼らが生きていくうえで欠かせない非常に大切なもの、最も大切なものを惜しげもなく献げるのです。しかもはるばると命がけの旅をして献げに行くのです。彼らは大きな犠牲を伴う贈り物を献げたのです。**

**そのようにして幼子イエス様を礼拝した彼らに「ヘロデのところへ帰るな」と夢でお告げがあり、彼らは「別の道」を通って自分たちの生まれ故郷に帰って行きました。自分たちが占星術の仕事をするのに必要な大切なものは救い主イエス様にささげてしまいましたので、生まれ故郷には帰りますが、「別の道」を歩み始めるのです。異教の神に仕え占星術に頼るのとは違う「別の道」を歩むのです。それはイエス様と出会って「主の道」を歩み始めたと言えるのです。**

**クリスマス。クリスマスというのは本来大きな犠牲を伴う愛の行為です。生まれたばかりのイエス様は占星術の学者たちから、彼らが大切にしているなくてはならないものを贈り物として献げられました。**

**そして、実は学者たちから贈り物を献げられた幼子イエス様こそが、神様がこの世界に住む私たち人間に与えてくださった最も大切な贈り物なのです。**

**「神は、その独り子をお与えになったほどに、世を愛された。独り子を信じる者が一人も滅びないで、永遠の命を得るためである。」（ヨハネ3：16）**

**神様が私たち人間を愛してくださり最も大切なもの、最も大切な独り子であるイエス様を私たちに贈り物として与えてくださったのです。それは何のためかと言いますと、私たちを罪から救うためです。神様から離れ、神様から顔を背けて、好き勝手に生きて多くの罪を犯してして神様を悲しませてしまう、愚かな私たちの罪を贖うために、最も大切な愛する独り子イエス様を十字架にかけるためにです。その尊い犠牲によって私たちの罪を赦し、十字架と復活によって、永遠の命を私たちに約束して下さるのです。私たちは神様からの最高のプレゼントであるイエス様を受け取ることが大事なことなのです。**

**そして、イエス・キリストという神様からの大きな愛の贈り物を受け取り、その贈り物がどんなに大切で愛に満ちたものであるのかがわかったなら、私たちはそれまでの人生とは「別の道」を歩むようになるのです。「主の道」を「愛の道」を歩むのです。インマヌエルのイエス様、共に歩んで下さるイエス様と共に「主の道」「愛の道」を歩んでいくのです。**

**全ての人にクリスマスの恵みが豊かにありますように。**